

長浜鉄道スクエア

長浜鉄道スクエアには、日本最古で現存している駅舎と、訪問者が実際に乗りこんで見学できる廃車となった機関車があります。その展示は、初期の日本の鉄道旅行や、輸送と商業が結びついた長浜の役割を物語っています。

博物館の入り口は、1882年に完成したレンガのアクセントを施した駅舎です。1884年から1899年まで、琵琶湖と日本海を結ぶ路線の南の終着駅として機能しました。19世紀後半の建物には、年代物の調度品、レプリカの切符売り場、当時の服を着た駅員と旅行者を模した等身大の人形があり、当時の魅力を今に伝えています隣接する JR 北陸本線を走る現代の電車が、よい雰囲気を与えます。

旧駅舎の後ろある2つの建物も、長浜鉄道スクエアを構成しています。一つ目は、現在の都市をモチーフにしたミニチュアの鉄道模型をはじめ、長浜の鉄道の旅の発展を示すジオラマやイラストが展示された大きな展示ホールです。日本の鉄道の歴史的、技術的ルーツをより深く探求したい方は多言語の音声ガイドを利用できます。

博物館の最後の建物には、1942年に製造された黒い D51 蒸気機関車と、1957年に製造された赤い ED70 電気機関車の2台が収容されています。車掌室に登って制御装置を観察したり、石炭火室を覗いたりできます。また、2階のデッキへ上り、機関車を眺めることもできます。